



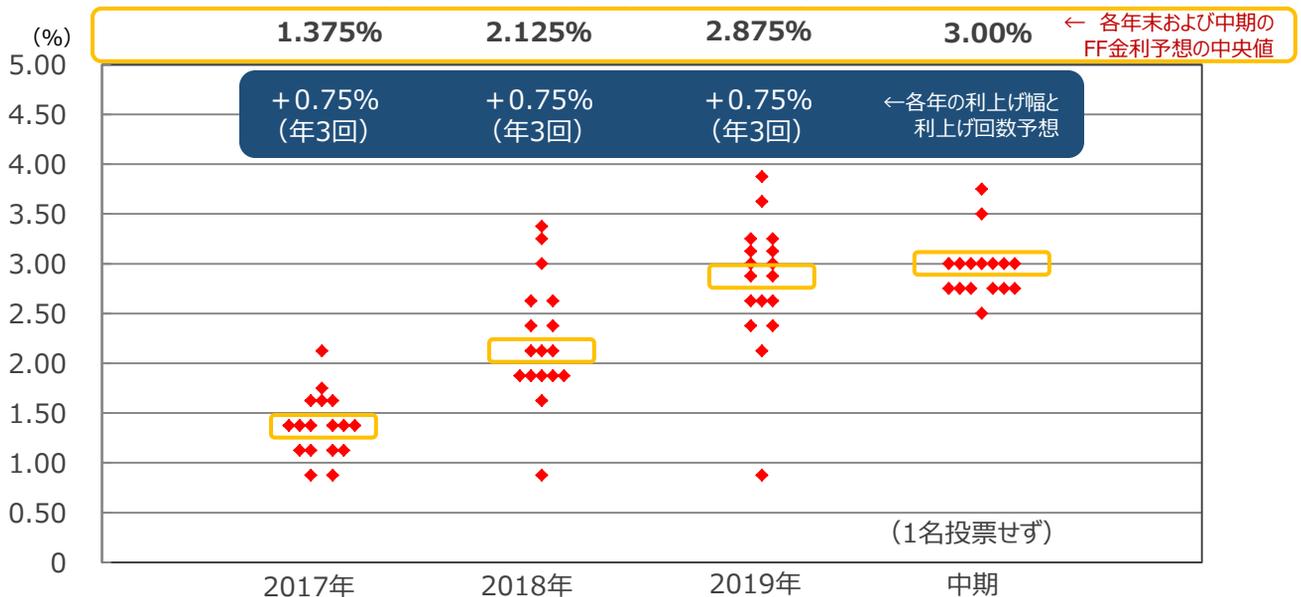
今日のテーマ  **米国の金融政策**

Q 米国の利上げはどの程度になりそうですか？

A 2016年12月のFOMCメンバーの政策金利見通し「ドット・チャート」によると、FF金利は中期的に3.00%程度までの引き上げが見込まれています。今後は、日米の金利差拡大が、中長期的に見て米ドル高円安要因となりそうです。

- 米国では、堅調な経済成長が続いていますが、トランプ大統領の財政政策によってさらに成長率が高まると見込まれます。
- 米国の金融政策の見通しには、毎年3、6、9、12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で公表される、「ドット・チャート」が参考となります。「ドット・チャート」は、FOMCメンバーそれぞれが適切と考える、米国の政策金利であるフェデラルファンド（FF）金利の誘導目標を“点（ドット）”の分布で示したものです。これによると、2017年末のFF金利予想の中央値は1.375%となっています。現在の0.50～0.75%のFF金利誘導目標に対し、0.25%の利上げを3回程度行うことが予測されています。また、中期的にはFF金利は3.00%程度まで引き上げられると見られます。
- 一方、日本では今後も当面金融緩和政策が続くと見込まれます。このため、中長期で見ると、日米の金利差は拡大すると見られ、為替の米ドル高円安要因となりそうです。

【「ドット・チャート」(2016年12月時点)】



(注)2016年12月14日時点でFOMCメンバーが適切と考える各年末および中期のFF金利誘導目標水準。

(出所) FRBの資料のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。